

Corporate Data

会社概要 (2019年8月31日現在)

商号 株式会社竹内製作所
 (英文社名) TAKEUCHI MFG. CO., LTD.
 本社 〒389-0605
 長野県埴科郡坂城町上平205番地
 代表者 代表取締役社長 竹内 敏也
 設立年月日 1963年8月21日
 資本金 3,632百万円
 事業内容 建設機械の開発、製造及び販売
 従業員数 786名 (連結)

● 役員 の 状況

代表取締役会長 竹内 明雄
 代表取締役社長 竹内 敏也
 取締役 渡辺 孝彦
 取締役 Clay Eubanks
 取締役 小林 修
 社外取締役 (常勤監査等委員) 草間 稔
 社外取締役 (監査等委員) 小林 明彦
 社外取締役 (監査等委員) 岩淵 道男

● 主要な工場及び営業所

工場 本社工場 長野県埴科郡
 戸倉工場 長野県千曲市
営業所 東京営業所 東京都港区

● ネットワーク

日本 株式会社 竹内製作所
米国 (販売子会社) TAKEUCHI MFG. (U.S.), LTD.
英国 (販売子会社) TAKEUCHI MFG. (U.K.) LTD.
フランス (販売子会社) TAKEUCHI FRANCE S.A.S.
中国 (製造・販売子会社) 竹内工程機械 (青島) 有限公司

※上記以外の地域における販売は、各国のディストリビューター (当社とディストリビューターシップ契約を締結した販売店) を通じて販売を行っております。

Stock Information

株式の状況 (2019年8月31日現在)

発行可能株式総数 138,000,000株 単元株式数 100株
 発行済株式の総数 48,999,000株 株主数 11,943名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,755	9.95
竹内 敏也	3,895	8.15
公益財団法人TAKEUCHI育英奨学会	2,702	5.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,181	4.56
東京中小企業投資育成株式会社	1,803	3.77
株式会社テイク	1,800	3.77
竹内 好敏	1,500	3.14
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM44	1,458	3.05
株式会社八十二銀行	1,440	3.01
竹内 民子	1,440	3.01

※持株比率は自己株式 (1,253,858株) を控除して計算しております。

株式分布状況 (所有者別)



株主メモ	
事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月
基準日	毎年2月末日 その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日	毎年2月末日 (中間配当を実施するときは8月31日)
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 http://www.takeuchi-mfg.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 (同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
(同郵送先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



古紙配合率70%再生紙を使用しています



証券コード 6432

第58期 中間報告書

[2019.3.1-2019.8.31]

世界初から世界の
TAKEUCHIへ

TAKEUCHI
:From World First to World Leader

株式会社 **竹内製作所**

機種名 TB250-2



ごあいさつ

株主の皆様へ第58期の中間報告書をお届けするにあたりまして、平素より賜っておりますご支援に対し、心から厚く御礼申し上げます。

当社グループでは、当期より新たな経営体制のもと、3カ年の第二次中期経営計画が始動しました。経営スローガン「新たな扉を開く」を掲げ、次なる成長ステージへとステップアップを果たすべく、グループを挙げて取り組んでいます。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 竹内 敏也

Q まずは、新社長としての抱負をお聞かせください。

当社グループはこれまで、お客様から期待される製品を、スピーディかつ期待以上のクオリティで提供することで成長を果たしてまいりました。企業理念「世界初から世界のTAKEUCHIへ」に代表される当社グループのDNAをしっかりと引き継ぎ、開発・生産・販売の一層の強化とともに、経営全般の管理面での基盤強化に取り組む所存です。

Q 貴社の強みについてお教えてください。

先ほどの繰り返しとなりますが、お客様の声や要望を製品に反映させるまでのスピードと製品クオリティです。「このアイデアは良い」、「この改善は行うべき」と思ったらすぐ動き出す。この小回りのよさ、瞬発力、機動力こそが当社の強みであり、成長の源泉となります。ユーザーは「丈夫で壊れにくく、長持ちする建機」とのご期待を当社製品に寄せてく

ださっています。ここにプラスαの付加価値を提供できるかは、当社グループの今後の勝負どころです。

例えば、海外の建機オペレーターは、毎日長時間ずっと建機に乗り続けて作業しています。そうするとキャビンの居住性やなめらかな操作性が、機種選定の際に重要なポイントになってきます。長時間座っていても疲れにくい椅子、オペレーターにストレスを与えないレバー配置、限られた居住空間をより広くする工夫など、これらは当社が長年にわたってお客様の声を地道に反映し、ノウハウを積み重ねてきたからこそ実現できた「強み」です。この強みを維持しつつ、性能面、環境面（エコ）、採算面でのプラスαに磨きをかけていきます。

Q 第二次中期経営計画において、特に当期に注力している施策をお教えてください。

現状の最大の課題は、製品需要に対してサプライヤーからの買入部品の調達量が不足し、業績の圧迫要因となっていることです。既存サプライヤーとの連携を強化すると同時に、

新規サプライヤーの開拓をグローバルに進めています。すでに新規サプライヤーから部品を調達し、品質検査と設計変更が完了した機種では量産ラインへの投入がスタートしました。

販売面では、アフタービジネスの拡大に注力しています。まず当期は、米国子会社の現有倉庫を増築して本体製品と保守パーツの在庫量を増やすとともに、保守トレーニングセンターを開設して第一線で活躍するサービスマンのレベル向上を図ります。来期以降、欧州においてもパーツセンターを開設する計画です。

開発面では、建機は今後「環境にやさしい」ことが求められるようになって考えており、バッテリー式ミニショベルの開発に取り組んでいます。2019年4月にドイツで開催された展示会では実演デモを行い、高いご評価をいただきました。稼働時間などの性能面と価格面でお客様のニーズにお応えできるよう、製品化に向けて開発を継続しています。

生産面では、本社第一工場にコンベアを設置するなど、生産能力の増強に向けた設備投資を行いました。従業員によるボトムアップの改善活動と合わせることで生産効率を最大化し、お客様からのご注文にお応えしてまいります。

第二次中期経営計画における重点施策

- 1 質的・量的に安定調達できる購買体制の構築
- 2 販売ネットワークの強化
- 3 開発力の強化
- 4 生産能力の強化
- 5 サステナブル(持続可能な)経営の推進

Q 長期的な方向性や事業戦略についてはどのようにお考えでしょうか。

当社グループが提供する小型建機は、住宅建築や水道、ガス、電気などの生活インフラ整備などの都市型土木工事になくはない存在で、人々の衣食住の「住」に深く関わる製品です。国連によると、世界的に都市人口は増加していく

と推計されており、当社グループの製品需要、ビジネスチャンスは今後も継続的に拡大していくと展望しています。その一方で、企業として求められる社会的役割も大きくなると認識しており、地球にやさしく豊かな社会の実現に貢献したいと考えています。例えば、国連サミットで採択された“持続可能な開発目標（SDGs）”の中で、11番の「住み続けられるまちづくりを」は、当社グループの事業領域そのものです。当社製品の提供を通じて、より安全で、より効率的で、よりクリーンなまちづくりを支えていきたいと考えています。

Q 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

世界経済や為替相場などの事業環境は、良いときもあれば悪いときもあります。近視眼的な業績に一喜一憂することなく、これまで蓄えてきた技術力とこれから習得する技術力を合わせ、従業員一人ひとりの力を結集すれば、当社グループは中長期的に成長発展できると確信しております。この信念を持って経営にあたり、企業価値の拡大に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



Consolidated Financial Highlight 連結財務ハイライト (通期予想は、2019年10月10日時点の予想を掲載しています。)



Point 1 通期の連結業績予想について

米国では、天候不順の影響で販売の一部が先延ばしされたこと、買入部品の調達制限で米国への出荷を制限したこと等により、上期は前年同期を下回りましたが、下期で回復を見込み、通期の米国での売上高は前年同期を上回る見通しです。一方の欧州では、英国を除いて好調に推移しており、下期も好調を維持すると見込まれることから、通期の欧州全体での売上高は前年同期を上回る見通しです。利益面では、前提為替レートを円高に設定したこと、製造原価が上期で想定以上に増加したこと、運搬費や保証修理費等の販管費も増加が見込まれることから、前年同期を下回る見通しです。

Point 2 配当金について

1株当たり配当金は50円(前期実績45円から5円の増配)を予定しており、期初予想から変更ありません。

Point 3 前提為替レートについて

業績予想の前提となる下期以降の為替レートは、1米ドル=104円、1英ポンド=127円、1ユーロ=115円、1人民元=14.5円としております。(期初予想では1米ドル=108円、1英ポンド=140円、1ユーロ=122円、1人民元=15.9円)

Feature 特集 お客様の声

“信じられないぐらいに**“タフ”**。なくてはならない頼れる存在で、**TAKEUCHI**製品を使わない日はありません。”



顧客情報

Hutcheson Horticultural Company社、Mark Hutcheson様 (オーナー)
同社は、アメリカ・ジョージア州で主に造園業を営む会社です。



主な用途

当社は、TB235-2やTL10V-2をはじめ、**TAKEUCHI**製品を数台所有しています。当社は整地をしたり、がれきや岩を運搬したり、芝植えをしたり、配水管を埋設したりするのに、ミニショベルとクローラーローダーを組み合わせ使用しています。例えば、TB235-2で地面を掘り起こして溝を作り、そこにTL10V-2で運んできた配水管を埋設する工事をよく行います。敷地の境界線ちかくで工事することも多いのですが、TB235-2は機動性に優れ、扱いやすいので大変重宝しています。

TAKEUCHI 製品を選ぶ理由

TAKEUCHI製品は特に下部体が素晴らしく、良質な鋼材で頑丈に作られており、ほとんど故障しません。35度以上の炎天下で過酷な使い方をしても、オーバーヒートしたことはありません。機械は経年劣化し、馬力も徐々に衰えていくものですが、私は約15年前に買ったTB135(*)を今でも使用し続けています。**タフ**で長く使えるとの評価の高さは、下取り価格の高さに直結しており、このことも数ある魅力のひとつです。**TAKEUCHI**製品は、これからも当社の発展になくてはならない存在であり続けると思います。

*TB135はTB235-2の2つ前のモデル (TB135→TB235→TB235-2)

製品概要

販売開始：2019年2月

特長：3.5トンのミニショベルで、既存製品「TB235」の後継モデル。より直感的かつ滑らかな操作が可能になったほか、エンジンや油圧機器の配置を見直したことで、メンテナンス性が向上し、運転席の居住空間も拡大されました。欧州の第5次排出ガス規制(通称EU Stage V)に適合した環境にやさしい製品です。

TB235-2



本社工場の近隣地に試験棟が完成 ～投資額約9億円、3拠点を集約して悪天候にも対応～

新試験棟は、延床面積が約2,600㎡（約800坪）の一部2階建てで、2階部分には事務所があります。

製品の耐久試験や性能試験を3拠点で行っていましたが、1拠点に集約しました。また、雨天時や積雪時にも試験ができるように、建屋の半分を土砂むき出しの掘削試験区間としました。さらに、試作機を改造するための工場区間、45℃の環境を保てる恒温試験室も備えています。

開発スピードを上げて、小回りよくタイムリーに新製品を提供していきます。



びんぐし試験棟（2019年6月完成、稼働開始）

中国（青島）の子会社で新工場が完成 ～投資額約13億円、本社へ部品を安定供給～

新工場は、建築面積が約15,000㎡（約4,500坪）の平屋建てで、3階建ての事務所を併設しています。より明るく、よりクリーンで安全な環境で作業ができるように、外光をできるだけ取り込んだ設計とし、工場各所に集塵機を設置しました。

ここでの生産品目は、本社工場で生産する建設機械の部品で、本体部分やバケットを上げ下ろしするアームやブームなどの大型製缶部品です。生産量は段階的に増やしていく計画で、人員を増やし、溶接ロボットや加工機械などの設備を増設してフル稼働すると、生産能力はこれまでの2倍にできると見込んでいます。

当社は、今後の増産を見据えて、部品を安定調達できる体制強化に取り組んでいます。



中国青島の新工場（2019年7月完成、稼働開始）

ホームページ（Takeuchiってどんな会社？）のご案内

当社のホームページでは、IR情報（経営方針、財務情報や開示文書などの最新情報）、製品情報、会社情報、採用情報に加え、当社をより深くご理解いただくためのコンテンツ「Takeuchiってどんな会社？」をご覧いただけます。皆様のアクセスをお待ちしております。



当社の強みや事業内容、過去から未来、そして社員の情熱をお伝えします

- 01 何を作っている？
- 02 どんな市場？
- 03 竹内の強み
- 04 拡大する売上高
- 05 これからの竹内
- 06 竹内のひと